

令和2年度のアクションプランの振り返り

毎学期「さわやかカード週間」を設定し、1週間の取り組みを記録しました。結果は、最終調査である3学期の記録（2月1日～2月7日）を基に算出しました。

アクションプラン1 相手を思いやる行動の定着<やさしく>

相手を思いやる行動（言動を含む）をする子供80%とする。

【結果】 達成した。

1週間（7日間）の内で「相手を思いやる行動をした」日数の平均 **5.7日(81.4%)**

6年生の子供たちが考えた渌水児童会のスローガン「絆ループ」という言葉が、児童会活動の実践を通して全校児童に浸透していきました。特に、2学期から企画運営委員会が呼びかけた「ぼかぼかの花」の活動では、全校児童が、互いに思いやりのある言動を認め合い、してもらってうれしかったことや言ってもらって心が温かくなった言葉を花の形のカードに書き合いました。集まったメッセージを企画運営委員が、毎日ランチタイムに全校放送で紹介し、1階廊下に掲示した。児童会活動と関連付けてアクションプランに取り組むことで、子供たちの意識が高まり、互いの言動のよさに目を向けるとともに、自分のよさにも気付くことができました。

アクションプラン2 適切な運動習慣の定着<たくましく>

めあてをもって運動に取り組み、「みんなでチャレンジ3015」 2回目「美女平」まで達成する子供の割合を80%以上とする。

【結果】 達成した。

「みんなでチャレンジ3015」 2回目「美女平」を超えた子供 **59人(81.9%)**

朝の体力づくりでは、活動場所を分散し、各自が自分で決めた運動に取り組みました。その結果、自分の興味や体力に合わせて楽しみながら進んで体力づくりに取り組むことができました。

学校保健委員会では、学校休業中の運動習慣の実態や運動不足によって起こる心と体の不調について知らせ、コロナ禍でも工夫して手軽にできる運動を動画で紹介しました。各教室で実践するとともに、家庭においても「おうちで学校保健委員会」に協力していただいたおかげで、家族と一緒に運動を楽しむことができました。

アクションプラン3 家庭学習の定着<かしこく>

1週間のうち5日以上、理由をもってプラス1（自習学習）に取り組む子供の割合を85%以上とする。

【結果】 達成した。

1週間に5日以上、自主学習に「なぜその学習をしようと思ったのか」理由を書くことができた子供の割合 **85.9%**

主体的に学習に取り組む態度を育むことをねらい、自主学習を子供たちが自分に必要なことを自分で考え、自分で決めて行う経験を積み重ねる取組として位置付けました。担任が、しっかり理由をもって取り組んでいる子供のノートを「プラス1コーナー」に掲示してよさを広めたり、「授業中にその日の学習とつながる自主学習を例示する」「選べるプリントを用意する」「個別に声掛けする」などの支援を行ったりしました。そうすることで、自分で決めることが難しかった子供も、「まねる」「選ぶ」ことから自己決定の経験を積み重ねていきました。また、保護者の方々が学校の方針をご理解いただき、子供たちの家庭学習に寄り添い、見守り、励ましてくださいました。

その結果、プラス1ノートやカードに理由を書く子供の割合が、**1学期 68.1%→2学期 77.8%**

→3学期 85.9%と徐々に増えていきました。